

平成 30 年 2 月 21 日

平成 29 年度学校関係者評価報告書

学校法人静岡県美容学園
静岡県美容専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人静岡県美容学園静岡県美容専門学校学校関係者評価委員会は、平成 29 年度自己評価報告書に基づいて学校関係者による評価会議を実施しましたので、以下のとおり報告します。

1 実施日

平成 30 年 1 月 29 日 (月)

2 場所

静岡県美容専門学校 会議室

3 実施内容

授業参観、学校報告会及び意見交換

4 学校関係者 (評価者)

宮崎 方敏氏 (静岡県まつり実行委員会委員)

森下臣一郎氏 (静岡県立静岡農業高等学校教諭)

北川 裕章氏 (静岡県立静岡商業高等学校教諭)

小澤 知彦氏 (静岡県立静岡西高等学校教諭)

羽切 美和氏 (昼間課程 2 年生保護者)

5 報告者

校長 杉本 淳光

教務主任 蒔田 英司

副教務主任 望月ひとみ

国家試験担当 長尾 紀子

総務担当 園田 環

事務局長 提坂 直

6 参列者

理事長 秋山 清敏

副理事長 島谷 人生

常任理事 中島 將博

はじめに

本校は、平成 23 年度から学校の質保証と向上を目指して「学校自己評価」を行っている。具体的には、教職員による「自己評価」と、「学生による学校満足度の調査」・「授業アンケートの集計」を行い、学校が抱える課題の明確化と改善を図ってきた。

本校では、この「自己評価」に加えて、組織的で継続的な教育活動の改善とキャリア教育の充実をさらに図るため、外部の有識者による「学校関係者による評価会議」を開催して、指導・助言や提言を頂くことにした。

当日は初めに授業参観で学生の取組状況を見ていただいたのち、学校からの報告、評価会議の順に進めた。会議では、学校の特徴的な取組などを各担当から説明した後、評価者から意見、改善すべき点、提言等を伺った。

<授業参観の感想>

- ・ 国家試験に対して緊張感をもって真剣にやっている様子が伺えた。
- ・ 国家試験合格率 100%を学校の意識として一貫して行っていることが感じとれた。
- ・ 国家試験に対する真剣さが伝わり、夢に向かっていく美しい姿に感動した。
- ・ 練習風景を拝見して、美容師は体力面が必要であると思った。

<学校関係者による意見、提言等>

1 教育理念・教育目標

(学校関係者の評価・提言)

- ・ 特になし

2 教育活動

(学校関係者の評価・提言)

- ・ 基本的な生活習慣を確立し、規則正しい生活の指導、欠席、早退、遅刻ゼロということを目指すことが重要なことだと考える。
- ・ 技術や知識だけでなく「思いやり」や「生活習慣」の教育も必要だと考える。

3 学生受け入れ

(学校関係者の評価・提言)

- ・ 生徒の満足度調査は、入学した生徒によって満足・不満足は変わってくるかもしれないが、学ぶということだけでなく、学校生活の全体の満足度を上げることによって、入学希望者の確保につながると考える。
- ・ オープンキャンパスでの、在校生たちが楽しくしている姿、自分の夢に向かって一生懸命やっている姿やその雰囲気が高中生やその保護者に伝わるのが大切だと考える。
- ・ 国家試験合格率が限りなく 100%に近づいていることは素晴らしいし、この点を PR した方がよい。
- ・ 高校生に対して地方都市で学ぶことも首都圏で学ぶことも大きな違いがないという

ことも説明をしたほうが良いと考える。

- ・校外活動で触れ合う人たちは、他県の方もいるので、そこでのつながりも宣伝にもなっていくのかと考える。
- ・静岡まつりなど様々なボランティア参加は、学生のモチベーション向上にもつながるし、学校の宣伝にもなると思う。

4 教職員組織

(学校関係者の評価・提言)

- ・現代の生徒は「見て覚える」のではなく「丁寧に教えてもらう」という意識を持っているので、学校の教員も生徒に合わせた教育をしなければならないと感じた。

5 施設・設備等

(学校関係者の評価・提言)

- ・生徒が食事をする「ランチルーム」などの環境は整ってきていると思われる。

6 学生生活支援

(学校関係者の評価・提言)

- ・学校の就職ガイダンスでは、学校側がサロンの特徴や経営理念などを十分に把握した上で、来校していただくことが必要だと思われる。

7 管理運営

(学校関係者の評価・提言)

- ・特になし

平成29年度 静岡県美容専門学校 学校評価報告書

30.1.29

1. 教育理念・教育目標

評価基準： A 適切である B ほぼ適切である C やや不十分な点がある D 不十分な点がある

評価項目	自己評価
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像が、明確に示されているか	A
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像は、卒業時の到達が読みとれるものになっているか	B
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像は、定期的に見直されているか	B
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像は、学生に浸透しているか	B

〔現状の問題点〕

- ・教育方針等は、始業式、終業式などで意識を持たせており、生徒にその趣旨が浸透しつつある。
- ・教育方針等は、授業をはじめとする日々の教育実践に生かす必要がある。

〔改善のための方策〕

- ・入学式、始業式、終業式等の場で、保護者や生徒に繰り返し教育目標などを語っていく。
- ・日々の授業やホームルームなど、全教育活動を通じて美容師としての在り方を指導する。

〔結果検証〕

- ・4つの教育方針、目指す学生像は定着しつつあり、本校受験生にも浸透している。

2. 教育活動

評価項目	自己評価
・カリキュラムは教育目標が反映されているか	A
・定期的なカリキュラムの見直しがなされているか	A
・テキストや教材は適切なものを選定しているか	A
・シラバスが作成され学生に配布されているか	A
・授業の点検・評価が適切に実施されているか	B
・国家試験や各種検定の合格率は目標を超えているか	B
・成績や出席が目標に到達しない学生に適切なフォローがなされているか	B
・進級、卒業の判定審査は適切に実施されているか	A

〔現状の問題点〕

- ・厚生労働省から示された教育課程の変更に対応する本校としての平成30年度版教育課程を決定する。
- ・コース選択制を導入して5年。授業内容を点検し、時代の流れに即した特色を出す必要がある。
- ・学生による授業評価を踏まえ、学生の授業満足度を高めるため指導方法を改善する必要がある。
- ・平成28年度卒昼間生の国家試験全員合まで、あと一歩であった。実技・学科とも個別指導の徹底が必要である。

〔改善のための方策〕

- ・コース選択制の各コース内容を吟味し、各コースの充実度を高める方策を練る。
- ・引き続き、全教員が学生からの授業評価を受け、質が高く、かつ分かる授業を行う。
- ・国家試験対策の教員チームを作り指導法の差異を解消し、弱点補強のための反復練習の徹底や自己採点制度を導入する。
- ・成績不振者等に対して、定期テストの素点だけでなく「学習の所見」評価にも着目して指導を行う。

〔結果検証〕

- ・厚生労働省から示された新教育課程を踏まえ、本校としての平成30年度入学生からの新教育課程を決定した。
- ・高齢社会の中、プロフェッショナルコースにおいて、ほとんどの学生が「福祉理美容士」の資格を取得できる体制が整った。
- ・本校を会場に「コース制発表会」を行い、約170名の保護者・中高生の方々に学習成果を発表することができた。
- ・昼間生、通信生とも国家試験全員合格は未達成であったが、昼間生合格率は上昇し続け、100%にあと一歩である。
- ・成績不振者へは、授業への取組姿勢・課題の提出状況にも着目させ、保護者との面談指導などに生かすことができた。

3. 学生受入れ

評価項目	自己評価
・学生募集のための広報資料の表現・内容、広報活動の方法・時期は適切か	A
・入学案内、HPには志願者が必要とする情報が掲載されているか	A
・募集要項の内容は適切か	A
・学校見学会、オープンキャンパスの時期、内容は適切か	A
・入学者選抜の時期、方針、方法は適切か	A
・志願者状況、定員充足率はどうか	C
・中途退学の理由・実状を適切に把握しているか	B

[現状の問題点]

- ・昼間課程・通信課程ともに、定員充足には至っていない。広報活動の工夫・充実が必要である。
- ・中学校卒を対象とした高等課程の募集を停止しているが、学則の変更を検討する。
- ・県内高校生が首都圏の美容師養成学校に進学している現状について、現状を把握する必要がある。

[改善のための方策]

- ・高校生への説明会だけでなく、HPの充実、テレビCMなど様々な広告媒体を通じて積極的な広報活動を展開する。
- ・引き続き様々な地域イベントに参加し、生徒の美容技術を生かした社会貢献活動を行う。
- ・美容業の周知と学生確保を目指して、合同進路ガイダンス、高校別進路説明会に積極的に参加する。

[結果検証]

- ・静岡まつり、クリスマスフェスタなど地域の様々なイベントに積極的に参加し、美容学校のPRにつながった。
- ・進路情報誌への掲載、列車内広告、映画館CM、DMの発送などを行うなど、広報の充実を図ることができた。
- ・オープンキャンパス、学校見学会等に延べ506人が来校し、高校説明会、合同ガイダンスに年間73回参加した。
- ・昼間課程は例年並みの入学生を確保できる見通しが立った。

4. 教職員組織

評価項目	自己評価
・専任教員は設置基準を満たしているか	A
・専任教員1人あたりの担当科目時間数は適切か	B
・教職員の業務内容は明確になっているか	B
・教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	B
・教職員の資質向上のためのシステムは適切に構築されているか	B
・職員は業務が滞りなく遂行できる人数を雇用しているか	B

[現状の問題点]

- ・教職員の能力の把握と業務実績の評価が十分とはいえない。
- ・教員の美容に係る技術力と教科指導力の向上を一層図る必要がある。

[改善のための方策]

- ・教職員の実績評価の一資料として、技術指導・教科指導に関する年間の自己目標を設定させる。
- ・授業を改善し、学生の満足度を高めるため、引き続き教員間の公開授業を進めていく。
- ・美容技術の向上のため、指導体制を明確にした上で全教員による勉強会を実施していく。

[結果検証]

- ・教員の学級担任や資格取得などに関する希望調査を実施し、希望に沿った対応ができた。
- ・技術力指導、教科指導に係る「自己目標シート」を取り入れたが、その活用は十分ではなかった。
- ・全教員が全ての美容技術を高いレベルで身に付けなければならないという共通認識は図られた。
- ・教員相互間の公開授業は進んだが、その評価と授業改善はまだ不十分であった。
- ・教員の技術勉強会が十分進まず、生徒への指導体制が十分機能しなかった。

5. 施設・設備等

評価項目	自己評価
・講義室は学習を行うのに十分な面積を有しているか	A
・実習室は実習を行うのに十分な面積を有しているか	A
・実習設備は整備されているか	A
・講義室・実習室の管理は適切に行われているか	B
・学生が自学自習できる教室を有しているか	A
・図書室は適切に整備されているか	A
・保健室は適切に整備されているか	B
・教育用機器備品は整備され活用されているか	B
・職員室の管理は適切に行われているか	B
・事務室の管理は適切に行われているか	B

〔現状の問題点〕

- ・施設・設備の老朽化に伴い、一部が補修・交換の時期を迎えている。
- ・図書室、ランチルームの工事が始まったが工期が遅れ気味であった。

〔改善のための方策〕

- ・補修・交換が必要なものは、優先順位を決めて工事を行う。
- ・請負契約書に基づく工事を督促し、併せて購入図書の選定を進める。

〔結果検証〕

- ・ネイル専用機の購入、下足箱付近の人感センサー照明の設置、その他防災機器の入替工事などを進めた。
- ・図書室・ランチルームの工事が11月末に完成し、生徒の利用が始まった。

6. 学生生活支援

評価項目	自己評価
・奨学金等、経済的支援は整備されているか	A
・学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか	B
・各学校行事について、適切な事後反省を行っているか	B
・防犯・防災訓練の実施等、不法侵入・災害に対する整備は万全か	A
・進路活動に関する支援が整備され、機能しているか	B
・新たな就職先の求人開拓をしているか	B

〔現状の問題点〕

- ・県東部出身の生徒が増えているが、地震等災害時の対応が十分ではない。
- ・美容室の勤務実態を十分把握せず、就職後に早期離職した卒業生が見受けられる。
- ・本校就職ガイダンスに参加する美容室の精査等、求人開拓のさらなる工夫が必要である。

〔改善のための方策〕

- ・地震等災害時の被害予測を調査し、通学地区ごとに危険個所の把握を行う。
- ・校内の防災機器の整備・点検を進め、安心・安全な環境を整える。
- ・県内外美容室の勤務条件とその実態を把握し、生徒に推薦できる就職先を精査する。

〔結果検証〕

- ・安全対策、防災対策の一環として、ガス遮断機・自動火災報知機の入替工事を行った。
- ・進路指導の一環として外部講師を招き、1年生に仕事の意義・遣り甲斐、就職先の選び方などの特別講義を実施した。
- ・社会保険加入その他の勤務条件を重視する本校の姿勢は美容室側にも伝わりつつある。
- ・年間5回、延べ105社(県内45社、県外60社)の美容サロンを招き、効果的な進路ガイダンスを実施することができた。

7. 管理・運営

評価項目	自己評価
・理事会・評議員会は適時適切に開催され、機能しているか	A
・理事会、評議員会の議事録は適切に作成、管理されているか	A
・就業規則などの諸規程は適切に整備されているか	A
・就業規則などの諸規程・学則等が定期的に見直されているか	B
・組織間の連携は適切に図られているか	B
・消防計画、学校安全計画等は適切に整備されているか	A
・個人情報保護法を遵守しているか	A
・学校の財務情報を公開する体制が整備されているか	A

〔現状の問題点〕

- ・財務状況等の情報公開が本校玄関のみの掲示であるので、在校生と来校者に限定されている。
- ・組織間の連携は進みつつあるが、意思統一の面で不十分な点がある。

〔改善のための方策〕

- ・学校の財務情報をホームページで公開し、多くの人に見てもらえるようにする。
- ・教務が中心となり、学年部・通信部との意見交換、打合せを繰り返し行った。

〔結果検証〕

- ・財務状況等を本校ホームページで公開し、多くの閲覧者に見てもらうことができた。
- ・意見交換を繰り返し行った結果、各学年部及び通信部の相互理解が進み、意思の統一ができるようになった。